

宝曆四年五月

# 御領分中古社作佛年数

高盛 西郷

(会員 大人島石間)

御領分中古社神明御鎮座曆数

大同元年ヨリ宝曆三年西迄 凡九百四十八年

一、正一位 五所大明神 祭礼六月・十一月 十五日

由来 人皇五十一代平城天皇御宇、大同年中御鎮座申伝へ。

宝永八卯年ヨリ宝曆三酉年迄 四十二年

一、鎮魂善神 同二月初午

享保十二年未ヨリ宝曆三酉年まで二十七年

一、稻荷大明神 全二月初午 三月御勸シヨウ

慶長元年ヨリ宝曆三酉年迄 凡百五十八年

一、白坪神社 祭礼 十一月二十五日

由来 慶長以前ヨリ御社の申伝御委細の由、左様御座無候。

建久元年ヨリ宝曆三酉年 凡五百六十四年

一、若宮八幡 祭礼 八月十五日・十一月卯辰日

由来 人皇八十二代後鳥羽院御宇、建久年中佐伯惟治勸請、御宮跡当西ノ丸ニ御座候。依ッテ御城

山ヲ八幡山ヨリ申来候。

まえがき

半世紀前に再記録された佐伯藩領分中古社の一部であるが、勸請時期や仏像の作者がわかる貴重な綴りが、このほど大人島久保浦元庄屋安藤家徳平宅で見つかった。

祖父徳松が書き写し残していた。拝見すると安政六寅年（一七九四）に中島幹右衛門がその内容ごとに宝曆三酉年（一七五三）以前の古社神明御鎮座曆数と寺々に作佛安置した作者を収録したもの。同じころ佐伯藩寺社奉行土屋亦兵衛が「御領分中寺社記」に書き記した内容と重なる部分もあるが紹介したい。

伊勢守様御城築之節、御宮白瀉ニ御移シ候由、申伝。延宝元癸丑年正月六日、御宮御炎焼ニテ記録御宝物等焼失仕候ニ付、委細記録申不候。

寛保元西ヨリ宝曆三酉年迄十三年

一、猿田彦命 祭礼 四月九日・十月九日 御勧請

宝曆三酉年

一、住 吉 同 六月二十九日・十一月卯辰日 勧請

延暦元年ヨリ宝曆三酉年 凡九百五十五年

一、星宮大明神 祭礼 六・十一月十六日 下野村坂山

由来 人皇五十代桓武天皇御宇、延暦七年、脇村ノ前老丁畑ト申前ニ御座、前ニ星天降座ス。勧請仕候由、申伝へ。

正応元年ヨリ宝曆三酉年迄 凡四百六十六年

一、瀧権現 祭礼 九月六日・十月二十一日 浅海井浦

由来 人皇九十一代伏見院御宇ヨリ正応年中ニ熊野権現勧請仕候由、申伝候。

大同二年ヨリ宝曆三酉年迄 凡九百四十七年

一、熊野権現 祭礼 十月二十日 大坂本村

一、大宮八幡 祭礼 八月十四日・十一月初卯 戸穴村

由来 申伝之趣、委細記録ニ御座候。

一、宇戸権現 祭礼 十月十八日 戸穴村之内宇戸口

由来 大宮八幡差統勧請仕候由申伝候得共、記録等御座ナク候。年数左記申不候。

安和元年ヨリ宝曆三酉年迄 凡七百八十六年

一、妙 見 祭礼 九月九日・十一月二十五日 坂野浦

由来 人皇六十三代冷泉院御宇、安和年中石間沖御影向あり。則彼地ニ勧請仕ヨリ寛弘五年五月五日御神託付、嵐崎奉遷候。嵐崎ヨリ申候。只今御宮地磯辺東方ニテ御座候年、風波ニ破損仕候。宝永年中只今ノ御宮地ニ奉遷候。

慶長元丙申年ヨリ宝曆三酉年迄 凡百五十八年

一、愛 宕 祭礼 七月二十四日 大坂本村

由来 慶長元申年六月二十八日、尺間嶽ヨリ勧請仕候。

曆応元戊寅年ヨリ宝曆三酉年迄 凡四百十六年

由来 暦応元戊寅年勸請仕候と申伝候得共、記録等無御座候。

天文八己亥年より宝曆三酉年迄 凡式百十五年

一、富尾権現 祭祀 十月二十日 大坂本村

由来 天文八己亥年勸請仕候由、申伝候も記録等無御座候。

大同元年より宝曆三酉年迄 凡九百四十八年

一、祇園 祭祀 六月十四日十一月十三日 切畑村

由来 人皇五十一代平城天皇御宇、大同元年二勸請仕候由、申伝候。

大永五年より宝曆三酉年迄 凡二百二十九年

一、一宮大明神 祭祀 十一月初午 切畑村平井

由来 人皇百五代後柏原院、大永五年勸請仕候由、申伝候。

大永六年より宝曆三酉年迄 凡二百二十八年

一、白山権現 祭祀 初午日 上野村

由来 大永六年勸請仕候由、申伝候。

大永五年より宝曆三酉年迄 凡二百二十九年

一、二宮大明神 祭祀 十一月初寅日 上野村山梨子

由来 大永五年勸請仕候由、申伝候。

大永七年より宝曆三年酉迄 凡二百二十七年

一、山王権現 祭祀 十一月初申日 上野村ノ内上小倉

由来 人皇百五代後柏原院、大永七年勸請仕候由、申伝候。

安和二年より宝曆三酉年迄 凡七百八十五年

一、黒坪大明神 祭祀 十一月八日 古市村ノ内 大内

由来 安和二年勸請仕候由、申伝候。

一、愛宕 祭祀 十一月二十四日 久部村

由来 慶長年中以前勸請仕候由、申伝候へ共、年数等の記録無御座候。

一、八幡 祭祀 八月十五日・十一月八日 村ノ内城村

由来 古社にて御座候へ共、記録並に申伝等も無御座候。

一、今熊権現 祭祀 六月九日 上岡村

由来 佐伯惟信勸請仕候、申伝候へ共、年数等の

記録無御座候。

年数右同断

大永五年より宝曆三酉年迄 凡二百二十九年

一、前高大明神 祭礼 六月・十一月十九日

一、祖母嶽大明神 祭礼 六月・九月九日 上岡村

由来 委細之儀は前条之通、御座候。

由来 佐伯惟治、大永五年四月勧請。

建長三年より宝曆三酉年迄 凡五百三年

一、富尾権現 祭礼 六月・十一月十六日 海崎村

一、彦宮三社大権現 祭礼 九月十五日 宮野内浦  
由来 建長三年辛亥年勧請仕候由、申伝候。

由来 当社人久々宮近江先祖、天文十年辛丑年勧請仕候と申伝候。

安和元年より宝曆三酉年迄 凡七百八十六年

一、富尾権現 祭礼 六月・十一月八日 赤木村

一、古妙見 祭礼 六月・十一月十七日 守後浦

由来 安和元年勧請仕候より寛弘五年五月五日御神託に付、只今の坂野浦へ奉遷候へ共、古跡等守後浦に御座候。

由来 慶長以前勧請にて古社と申伝候へ共、記録無之候。年数知れ申不候。

一、三竈江大明神 祭礼 六月・十一月十八日  
正治元年より宝曆三酉年迄 凡五百五十五年

一、愛宕 祭礼 五月二十四日 上岡村  
由来 天文十九戌年勧請仕候由、申伝候。

因尾村ノ内 堂ノ間

久寿元年より宝曆三酉年迄 凡六百年

由来 寿永年中、平家の家臣光世・光国と申者兄弟、因尾村於前高、佐伯惟榮対彼二人、依て其靈

一、宇戸権現 祭礼 六月二十五日・十月二十日

因尾村ノ内 井上

魂崇有し、正治元年惟榮二社造立の由、申伝候。

由来 久寿元年勧請仕候由、申伝候。

長寛二年より宝曆三酉年迄 凡五百九十年

一、愛宕 祭礼六月・十月二十四日 因尾村ノ内屋形

由来 長寛二年勸請仕候由、申伝候。

文保二年より宝曆三酉年迄 凡四百三十六年

二、天神 祭礼 十一月五日 因尾村ノ内 櫻峯

由来は同右。

正元年中より宝曆三酉年迄 凡四百九十五年

一、天神 祭礼 六月・十一月二十一日

因尾村ノ内 上津川

由来 正元年中勸請仕候由、申伝候。

永正五辰年より宝曆三酉年迄 凡二百四十六年

一、熊野権現 祭礼 六月・十一月十九日

上野村の内 小田

由来 人皇百五代後柏原院御宇、永正五辰年勸請

仕候由、申伝候。

永正七午年より宝曆三酉年迄 凡二百四十四年

一、愛宕 祭礼 六月・十一月十九日

上野村ノ内 宮河内

由来 永正七午年勸請仕候由、申伝候。

大永五酉年より宝曆三酉年迄 凡二百二十九年

一、妙見 祭礼 九月九日 上野村の内 井崎

由来 大永五酉年勸請仕候由、申伝候。

大永五酉年より宝曆三酉年迄 凡二百二十九年

一、愛宕権現 祭礼 六月十三日・十一月十四日

古市村ノ内 引地

由来 惟治大永元年勸請仕候由、申伝候。

天正七卯年より宝曆三酉年迄 凡百七十五年

一、本宮権現 祭礼 六月・十一月十六日

中野村の内 三股

由来 加賀国白山権現勸請之由、申伝候。

慶長十巳年より宝曆三酉年迄 凡百四十九年

一、恵美須 祭礼 十一月十日 片神浦

由来 慶長十巳年勸請仕候。

天文二巳年より宝曆三酉年迄 凡二百二十一年

一、鴟尾権現 大坂本ノ内 宇藤木